

「時代祭応援プロジェクト」 (シチズンシップスタディーズI、GBクラス)

活動場所：中京区 活動開始：平成18年4月～ ※平成26年度は休止

立命館大学
サービスラーニングセンター



平安講社第八社

■ 地域が抱えていた課題

時代祭は、役員の年齢層が高いため、衣装管理をはじめとする各種「裏方仕事」の負担が増大していた。また、時代祭でのアルバイトの認知度の低下があり、行列全体の学生アルバイトが集まりにくい状況となっている。

■ 取組（連携）のきっかけ

「平成17年度文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」採択を契機に、大学から平安神宮に相談し、かねてから立命館大学と縁のある平安講社第八社のアルバイト要員分を、参加型学習の枠に提供いただき、新たな教育プログラムの開発が行われることになった。

■ 具体的な連携の取組

時代祭行列への参加の他、日頃から朱雀第一～第八学区で行われる地域活動に参加し、対象地域への理解を深めている。夏には虫干しなどを手伝うなど祭りへの準備を重ね、大祭1ヶ月前には入隊式への参列と共に、隊士の練習の受付などを担う。

また大学内での広報活動を行い、学生を中心とする若年層への関心を高めることに貢献している。

■ 今後の活動

- 大学内での「認知度」にこだわらず、地域や時代祭全体を俯瞰した上で多様な活動を行っていく。
- サポーター（活動を補助する過年度受講生）の役割を明確化し、活動の充実を図る。
- 各種地域行事への参加など、受講生「個人」と地域の連携を強化する。

■ 成果

①大学・学生の視点

大学内広報活動の他、現場へ伺い、準備や練習など舞台裏から関わる事で、時代祭の良さを目で見て肌で感じる事ができた。そして感じた事を他の学生にも発信している。

この活動を通して、地域との関わりや時代祭そのものに魅力を感じ、プロジェクトが終わってもサポーターとしてその関わりを持ち続け、次の受講生達に繋げていきたいという感情が生まれた。

②地域の視点

地域役員の高齢化により、若い担い手を求める中、学生の参加がきっかけで、地域の若者の参加が増えた。

また、本活動により学生も地域と接することで、地域を見直す契機となっている。活動終了後においても、自分たちの住む地域へ目を向け、進路へ反映させている学生もいた。そうした場を提供していることに意義を感じている。

活動写真



広報ポスター掲示



平安神宮での衣装戻し



時代祭当日



立命館大学内の学食にて時代祭写真展



平安神宮での活動計画プレゼン



維新勤王隊の練習受付の補助

